

## 令和3年度 第2回島根県社会教育委員の会議 【議事要旨】

日時：令和4年2月18日（金） 13：30～15：30

場所：島根県民会館（305会議室）他オンライン会場

### 出席状況

#### ○委員（出席 7名）

有馬会長、高尾副会長、景山委員、久佐委員、寺井委員、豊田委員、山崎委員

#### ○事務局（出席 10名）

野津教育長、石原副教育長、野々内社会教育課長、佐草生涯学習振興グループリーダー、山本社会教育主事兼社会教育グループリーダー、福村社会教育主事、糸賀社会教育主事、高橋社会教育主事、武田社会教育主事、植田社会教育主事

### 1 開会

### 2 あいさつ 野津教育長

### 3 議事

事務局から以下の内容について、資料に沿って報告

#### （1）意見聴取事項

- ・令和4年度社会教育関係団体への補助金交付

#### （2）報告・説明事項

- ・県社会教育課の主要事業（R3年度報告とR4年度計画）

①ふるさと教育推進事業

②ふるさと人づくり推進事業

③結集!しまねの子育て協働プロジェクト事業

④社会教育士確保・養成事業

### 4 事例発表及び意見交換:「社会教育士が活躍するしまねの未来」

～社会教育士に期待する役割、社会教育士が活躍する場面～

#### （1）事例発表:『「社会教育士」(講習)の学び』を活かして

浜田市今福まちづくりセンター 岡本 紀子 氏

株式会社 Community Care 古津三紗子 氏

#### （2）質疑応答・意見交換

**事務局** (第1回の振り返りと今回の事例発表及び意見交換についての説明)

この後は、事例発表及び意見交換を行い、テーマである「社会教育士が活躍するしまねの未来」について、特に、社会教育士に期待する役割や社会教育士の活躍の場面はどこなのかといった視点で話をする時間を持つ。異なる立場からの発表が聞け、社会教育士についてのイメージがより鮮明に、そして広がっていくことになると思う。

**事例発表者** (2人による事例発表)

- ・自己紹介
- ・講習を受けようと思ったきっかけ
- ・学びをどのように業務に活かしているか
- ・学びを通して意識がどう変化したか

**委員** 社会教育というものを、どのように思ったのか。率直なところを伺いたい。

**事例発表者** 自分が受けて来た教育は一方向的な教育であったと感じている。社会教育を学ぶことで、課題解決能力、ファシリテーション能力、プレゼンテーション能力などの能力が本当に必要なのではないかと思い始めた段階であったので、これから必要になる教育だと改めて感じ、すごく素晴らしい教育だと思っているのが率直なところである。

**委員** 自分が変わることで、周囲も変化するという手応えをどのようなところを感じているか。

**事例発表者** 企画する事業自体に関わる人数が、団体同士を組み合わせることで人数が一気に増えていくという広がりがあった。同時に、まず自分ができることをすることで、保護者や子どもたちへの関わりがすごく広がってきた。

**事例発表者** 私の場合は、自分自身が変わることでスタッフや職場のメンバーが変わっている。スタッフ一人一人が行動できるようになることで職場が、利用者が変わり、その利用者が地域とつながることによって、地域住民も変わっていくと感じている。

**委員** 住む場所や置かれた環境で、ある程度活動は特色づけられると思うし、本人たちの意欲やその方向性で、特色が出てくると感じている。

**委員** 2人ともすぐに行動に移して、生き生きと活動している姿がとても印象的だった。社会教育士が学んだ視点が、学校現場の教員にも欲しいと思った。

緊急時の対応訓練を公民館と学校が一緒になって実施したということだが、そこをつなぐため、手始めにどのような行動をとったのか。

**事例発表者** 日頃から、学校とまちづくりセンターを行き来することで、学校との関係性が出来上がっている。この事業に対しては、教頭先生からまちづくりセンターに貸し館の話があったときに、こちらから地域の方とも一緒にしたいと提案をした。

**委員** 学んだことがすぐ社会や仕事、環境に反映できていてすごい。二人が課題意識を持ち、同じように職場のメンバーが課題を持ち、さらに課題解決に向けた役割や機能が二人の周りにあったのではないかと思う。そこで、よい関係性の中で働きかけができる要素や、思ったことが進められた要因を教えてください。

**事例発表者** エリアコーディネーターという地域のコーディネーターが、1人必ず役割としてある。今年は、その役をたまたま私が担当することになり、同時にまちづくりセンター主事としての役割が重なったことで、地域を中学校単位で動けることにつながった。役割が重なったことで動きやすかった。

**事例発表者** 私の会社自体がコミュニティナース活動をしていく方針を持っている。「健康というのは体が健康であったり、心が健康であったりするだけではなく、人のつながりや、生きがい、役割を持つことはとても健康に良い」という考えの下で、そういった活動を大事にしている。私が地域に出て新しい活動を周りが押してくれたからこそできたという背景がある。

**委員** これから連携したいところや、やってみたいことなど、何かビジョンがあれば聞かせていただきたい。

**事例発表者** NPOや民間など、行政だけでは難しい発想や財源などの強みをコーディネートして地域に還元するような事業をしてみたいと思っている。全体が子どもにどう関わるかといったところを把握して、みんなで連携できたらいいと思う。

**事例発表者** 病気や障がいのある方が役割を発揮する場がないことが課題である。今後は、医療の分野にとどまらずに、公民館や店、飲食店など、視野を広げて、連携していきたい。また、オンラインイベントの中で、問いが生まれ、オンラインイベントや活動が循環している状態である。社会教育士の仲間と、その問いを次々に深めていくといった連携を取っていきたい。

**委員** 社会教育委員や社会教育主事を今の段階でどの程度意識しているかということをも二人に伺いたい。

**事例発表者** 地域の社会教育委員と話す機会が何回かある。同じ研修を受けたり、公民館に来たときに社会教育について話をしたりする程度である。一緒に何かをする感じではなく、交流しているという認識である。

派遣社会教育主事については、いつも頼り切っているという状態である。

**事例発表者** 社会教育委員に関しては、関わるのは今回が初めてで、まだ分からないところもある。公民館は健康づくりともリンクすると思うので、今後一緒に医療、福祉の分野が手をつなぎ、さまざまな連携を取っていきたい。

**委員** それぞれの社会教育士の個性を活かした活動が展開されていくと良い。社会教育というと、今まであまり知られていない世界だった。広報の強化が必要だ。特に、社会教育の関係者だけではなく、一般企業や組織、団体などに積極的にアプローチしていかなければいけない。

互いの情報交換などができるコミュニティづくりも必要である。できれば県単位の開けた場であってほしい。質問だが、今後ますます活躍していくためにしてほしいこと、課題に感じていること、葛藤していることなど、本音があれば教えていただきたい。

**事例発表者** 周知の部分は課題に思っている。受講者同士をつなげてもらい、すごく刺激がたくさんある。学び続けるよい環境だと思う。社会教育士の受講者だけではなく、興味がある人とのコミュニティがあればとてもよい。

**事例発表者** 社会教育は医療、福祉業界で地域医療に関わる文脈で少しずつ注目されてきている。社会教育士になるための講習は、全国民に学んでほしいと感じている。民間企業の人にも社会教育士になれるように、広報をしていくとよりよい地域になるのではないかと。

また、コミュニティナースは、働く場が限られているところの改善を願う。公民館もコミュニティナースの活躍の場になると良い。

**委員** 学びの在り方について伺う。自身が受けた島大の社会教育主事講習の学びの在り方と、講習を受ける前に公民館で関わっていた学びの在り方とは、どう違うか。あるいは、今まで自分が思っていた学びの在り方と、島大での社会教育主事講習の学びの在り方とはどう違うか。

**事例発表者** 学びの在り方について、島大講習は、参加者も講師も本当に主体的で、今までより自分から学びに行く姿勢になった。先生方の熱量、安心・安全の場づくりなど、大きく違った。

**事例発表者** 講習を受ける前の自分は、受け身だった。この講習を受けて、どんな立場でも、学び続ける姿勢があれば成長できるのだと思ったことが、すごく大きな変化だと感じている。

**委員** 「社会教育士に期待する役割」として、個人的には3つあると思う。

1つ目として、学びの在り方をアップデートしていくことを期待したい。島大での社会教育主事講習が、学びの在り方をアップデートし続けるということが大変意識している中で、特に、島大の社会教育主事講習を学んだ社会教育士は、県内さまざまところで学びの在り方をアップデートしていくことをどんどんやってもらいたい。

2つ目は、境界線を溶かしていくことである。社会教育主事や社会教育士が、地域づくりを本業としている人と一緒に取り組むことや、横串に刺しながら何かしていくということを仕掛けていってほしい。そのためには、何か人と人をつなぐ、混ぜる、通訳するといった役割を担ってもらいたい。

3つ目は、人の流れをつくることである。地域の子どもたちが、ふるさと教育、ふるさと学習を受けて、最終的に戻ってくるためには、出ていった後の関わりづくりが大切である。外に出ていった子どもに関わり続けるというのは難しいが、そのようなことを社会教育士が担っていくことを期待したい。

**事例発表者** 学びの在り方については、大人が子どもを教えるという感覚から、大人が子どもから刺激を受けることも大切だと思うようになった。新しい時代についていける、学び続ける大人づくりというのを意識するようになった。

境界線を壊していくというところでは、今、新しい役割の人がたくさん増えて、混乱している中で、自分が関わることで何か流れづくりのようなことができたらいと感じている。出ていった人との関わりづくりも視野に入れながら取り組んでいきたい。

**事例発表者** 主体性を一人一人が持つことで、地域が変わっていくと思う。混ぜていくというところでは、もっと子どもから大人までさまざまな人が関わることで、大人も学ぶことが本当にたくさんあると感じている。

**事務局** 島大講習の参加者アンケートによると、参加者の島大講習に対する評価が非常に高かった。大体共通する言語が、講師の熱量がすごいということと、生徒同士や先生との対

話がすごいということで、島大講習を受けた人の評価が非常に高いということが印象に残っている。

**委員** 大学の教育学部を卒業すれば教員の免許はもらえる。社会教育主事講習を受けると、社会教育士の称号がもらえる。その先、教育という言葉がついている役職というのは、レベルとか高さとかには際限のないものがあるって、限りなく深いものを要求されているという部分がある。少しずつ経験と学びを積み重ねて、自分が成長していくと同時に、持っている資格の質を高めていくことになる。これは一生の仕事だとでも思う。

社会教育士にどのような役割を担ってもらいたいのか、またはどのような活動の場面を設定してもらい、または、自らつくってもらいたいのか、私も大いに勉強させていただいた。せっかく国が社会教育士という称号をつくってスタートさせたので、これがこれから先、島根の中で有効に機能するということを賢くやっていかなければならない。

講習での学びも大事だが、現場で活動をして、働いて、動いて、行動した中で学ぶことが多い。そういう意味で、これからの大切であり、実践に学ぶ、活動しながら学んでいくことを基本にして考えていくことが大事だと思う。

これまでに存在した先輩たちとのつながりを大切にしていきたいことが大事だと思う。社会教育委員ともつながってほしいし、ここにもたくさんいる社会教育主事は、OBもたくさんいるので、たくさんの人たちとのつながりも賢く上手に利用して、活かしていくとよいと思う。

この仕事は面白がってやってもらいたい。笑顔で楽しんでやっていくことが大事だと思うし、私どもも笑顔で取り組めるように応援していくことが大事だと思っている。

## 5 あいさつ 石原副教育長

## 6 閉会